

Time & Air
AMANO

Sustainability Report 2023

アマノ サステナビリティレポート

基本理念体系

「アマノグループ基本理念」は、不変の創業の精神である「社訓」を基軸として、「経営理念」「経営指針」「経営方針」「行動規範」で構成します。



社訓

鈍 とは、正しい行為をいいます。愚鈍の鈍ではなく、正直、明朗、人格尊重、人の和、奉仕の気持ちといった行為にも通じます。

根 とは、たゆみない努力をいいます。仕事に対して愛情をもつとか、研究向上心をもつということにも通じます。

運 とは、めぐまれる幸運をいいます。「鈍」「根」をよく実行したときに「運」は開け、ゆたかな心、ゆたかな生活がみえます。「運」は寝て待てということではありません。

経営理念

「人と時間」「人と空気」の分野で
新しい価値を創造し、
安心・快適で健全な社会の実現に貢献します。

経営指針



持続成長

既存事業の拡大に加え、中長期・グローバルな視点で新しい事業・市場・価値を創出し、持続成長を目指します。

コーポレートガバナンス

経営環境の変化に対応した最適なガバナンス体制を基軸に、迅速・果断な意思決定を行います。

CSR 社会的責任

ESG 要素など企業を含む社会全体でのサステナブルな取り組みが求められている中、対応すべき課題に対し積極的に取り組んでまいります。

利益還元

事業活動により適正な利益を確保し、全てのステークホルダーに継続還元して、信頼の獲得と良好な関係の維持に努めます。

行動規範

2014年4月に『アマノグループ社員行動規範』を制定しました。この行動規範は、これまでのアマノグループの長い歴史の中で培われてきた企業文化や良い伝統のうち、特に大切にしていきたい項目を12の行動規範にまとめています。

左側の6項目が「基本的な心構えに関する規範」、右側の6項目が「仕事を進める上での規範」という構成となっており、社員一人ひとりにとって様々な判断や行動の指針となります。グループ全体でこの行動規範の理解を深め、行動規範に沿った判断や行動が実践できるよう、様々な取り組みを行っています。



スローガン

未来が求める、 時間と空気を。

ヒトをとりまく、時間と空気。

それをいかに、より良く、豊かなものにするか。

アマノの歴史は、その挑戦の歴史でした。

時代の変化と共に、社会も大きく変わりましたが、

私たちが大切にしていることは、創業時から変わっていません。

とことんヒトを見つめる。その声に耳をすます。

そこから得た気づきをもとに、

私たちだからできるイノベーションを生み出していく。

時間に見える化し、安全で快適な社会の構築を。

空気の子カラで、心地よい地球環境の創造を。

アマノはこれからも、未来を良くする挑戦を続け、

サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

CONTENTS

Introduction	基本理念体系／経営理念／経営指針	1	生物多様性への取り組み／環境配慮型製品	22			
	行動規範／スローガン	2	化学物質管理	23			
	目次／編集方針	3	社会	人権方針	25		
	アマノの事業展開	4		人権デュー・デリジェンス	26		
	社会で活躍するアマノ製品	5		人材育成方針／社内環境整備方針	27		
	会社概要	6		従業員との関わり	28		
	トップメッセージ	8		多様な働き方とワークライフバランスへの取り組み	30		
	アマノグループのサステナビリティ	9		労働安全衛生／防災の取り組み	32		
	・サステナビリティ基本方針／サステナビリティ推進体制	9		品質・顧客満足	35		
	・マテリアリティ	10		社会貢献活動	36		
	・外部イニシアチブ／社内浸透／ステークホルダーとのかかわり	11		ガバナンス	コーポレート・ガバナンス	39	
	環境	環境方針			13	取締役会	40
		気候変動への対応			14	役員一覧	42
環境マネジメントシステムの取り組み		16			コンプライアンス	43	
環境負荷低減の取り組み		17			情報セキュリティ／個人情報保護	44	
支店・営業所の取り組み		19	サプライチェーンマネジメント		46		
廃棄物削減の取り組み		20	目標と活動実績	47			
グリーン調達の取り組み	21						

編集方針

本レポートは、当社のサステナビリティに関する基本的な考え方や2022年度におけるESG(環境・社会・ガバナンス)の取り組み実績について、ステークホルダーの皆さまに報告する事を目的としています。

参照ガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」
環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」

報告対象期間

2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)
過去の主要な活動や2023年度の最新情報も一部含みます。

報告対象範囲

明記がない限り、アマノ単体を対象としています。環境報告については、本社及び相模原事業所、細江事業所の3サイト、全国支店・営業所サイトの単位としています。本社に隣接するアマノギャラクシービルと、本社敷地内

の株式会社アマノエージェンシーは、本社サイトとして本報告の対象に含んでいます。

見通しに関する注記事項

本レポートに記載している計画、将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の結果と大きく異なることがあることをご了承いただきますようお願いいたします。

発行年月

2023年10月
(次回発行予定2024年10月／前回発行日2022年11月)

お問合せ先

アマノ株式会社 サステナビリティ委員会事務局
E-mail: Sustainability@amano.co.jp

アマノの事業展開

国産初のタイムレコーダーを送り出して以来、常に開発型企业として継続し、全事業部門が顧客密着型の営業活動を通じ、環境の変化にスピーディーかつ柔軟に対応する積極的な事業展開を続けています。

情報システム・ 時間管理機器



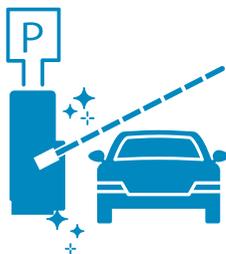
働く人の情報管理や勤務時間の集計、給与計算、届出ワークフローなど様々な情報を効率的に処理する人事労務システム。出退勤の時刻を記録するタイムレコーダー。伝票や書類に正確な日時を記録するタイムスタンプなど、オフィスやビジネスにおける多くのシーンでアマノの情報システム・時間管理機器が活躍しています。

環境システム



精密機器や電子部品の製造、食品加工、様々な現場で発生する粉塵をしっかり捕集する集塵装置。溶接やレーザー加工で発生する煙や悪臭を捕集するヒュームコレクター。機械加工作業や噴霧作業で発生する油性・水溶性のミストを効率よく捕集するミストコレクターなど、職場環境改善、省エネ、低コスト設備の実現に貢献しています。

パーキングシステム



ショッピングセンターや病院など様々な施設の駐車場でお馴染みのゲート式精算システム。コインパーキングで活躍するフラップ式精算システム。駅前の駐輪場では駐輪場システムなど、街中のいたるところで、アマノパーキング製品が活躍しています。アマノは車と人の快適な社会の実現に貢献していきます。

クリーンシステム



清掃作業の品質向上や業務の効率化、人手不足対策に貢献する清掃ロボット。駅や商業施設や工場の床を清潔に保つ自動床洗浄機。ホテルやオフィスなどのカーペットの汚れをとるカーペット清掃機。屋内外の路面を効率よく清掃する路面清掃機など、「掃く」「洗う」「磨く」で身近な環境の美化と清潔維持に役立っています。

会社概要

社名	アマノ株式会社 AMANO Corporation	設立	1945年(昭和20年)11月22日	国内事業所(生産拠点)	相模原事業所・細江事業所
本社所在地	神奈川県横浜市港北区大豆戸町275番地 電話: 045(401)1441(代表)	代表者	代表取締役社長 山崎 学	連結子会社	28社(国内・海外の製造・販売会社)
創業	1931年(昭和6年)11月3日	資本金	182億3,958万円(2023年3月末現在)	非連結子会社	3社
				関連会社	1社

アマノグループは、アマノ株式会社及びグループ関連会社(32社)で構成し、情報システム・時間管理機器、パーキングシステム、環境システム、クリーンシステムを展開しています。

(2023年3月末)

連結売上高

132,810百万円

(2023年3月期末)

地域別連結売上比率

日本 **61.1%**

海外 **38.9%**

(2023年3月期末)

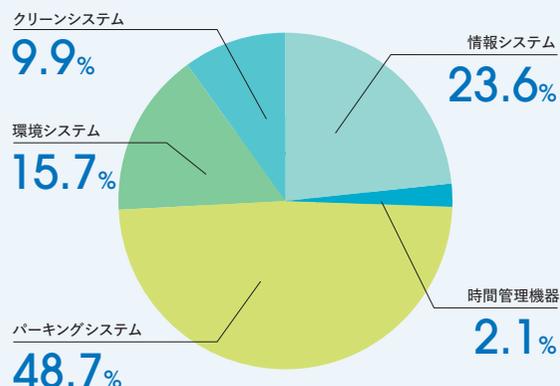
海外
内訳

北米 **12.3%**

アジア **18.9%**

欧州 **7.7%**

●事業別売上比率(連結)



●連結売上高



連結営業利益

15,787百万円

(2023年3月期末)

連結経常利益

16,960百万円

(2023年3月期末)

ROE

9.6%

(2023年3月期末)

従業員数

正社員

連結 **5,083**名

単体 **2,017**名

臨時雇用

単体 **0**名

(2023年3月期末)

男女別従業員数(単体)

男性 **1,687**名
83.6 %

女性 **330**名
16.4 %

(嘱託・パートを除く、2023年3月期末)

育児休業取得率

男性 **20.0** %

女性 **100** %

(2022年度実績)

CO₂削減率

(対象 Scope1+2)

35.7 %

(2013年度比、2023年3月期末)

廃プラリサイクル率

97.9 %

(2023年3月期末)

平均勤続年数

19.0年

(2023年3月期末)

男女別従業員数(連結)

男性 **3,825**名
75.3 %

女性 **1,258**名
24.7 %

(嘱託・パートを除く、2023年3月期末)

生産・販売・研究開発拠点数

日本 **76**拠点

海外 **93**拠点

(2023年3月期末)

PRTR対象物質
取扱量削減率

29.9 %

(2022年度比、2023年3月期末)

サステナブル経営に繋がるパラダイムシフトに対する取り組みで、 持続可能な社会の実現と企業価値向上を目指します。

私たちアマノグループは、「人と時間」「人と空気」の分野で、新しい価値を創造し、安心・快適で健全な社会の実現に貢献することを経営理念としています。また、歴代の経営者から「不易流行」という考え方が受け継がれております。「残し伝えるべきものは残しつつ、新しいものを取り入れ、変えるべきものを変えること。変化を恐れずに挑戦し、変化を積み重ねることで企業は存続する。」この考えを全社員が実践することこそが、100年企業に繋がっていくと考え、日々事業に取り組んでいます。

2023年4月にスタートした第9次の新中期経営計画では、「100年企業への4th Stage —サステナブル経営に繋がるパラダイムシフトへの取り組み—」を経営コンセプトに掲げています。その中で、グローバルに展開する全事業の拡大に加え、環境負荷低減や人的資本の価値最大化を重要な課題と位置付けました。

これらの課題を達成する為に、まず、事業を通じた社会課題解決の観点で4つのマテリアリティ「地球環境にやさしく」、「人にやさしく」、「安心・安全の提供」、「責任ある企業活動」を特定しました。今後、このマテリアリティを具体化させてまいります。併せて、中長期的な外部環境の変化に対応していく為、多様な人材が活躍できる職場づくりを継続して進めます。

外部機関への参画の点では、2022年10月に「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)」へ賛同を表明、2023年6月には、責任ある企業行動のため国連が提唱する「国連グローバルコンパクト」に署名しました。より良い社会の実現に向けて、外部機関とも積極的に連携してまいります。

当社グループは、今後も全てのステークホルダーから信頼される企業グループを目指し、中長期かつグローバルな視点で社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会を未来に繋いでいくことに貢献してまいります。

代表取締役社長

山崎 学



アマノグループのサステナビリティ

サステナビリティ基本方針

私たちアマノグループは、「人と時間」「人と空気」の分野で、新しい価値を創造し、安心・快適で健全な社会の実現に貢献することを経営理念とし、その実践を通じて持続可能な社会の実現と企業価値の向上に努めます。

企業を含む社会全体でのサステナブルな取り組みが求められている中、対応すべき課題に対し積極的に取り組むとともに、「お客さま、取引先、株主、従業員、地域社会」の全てのステークホルダーに信頼され、評価される企業を目指してまいります。

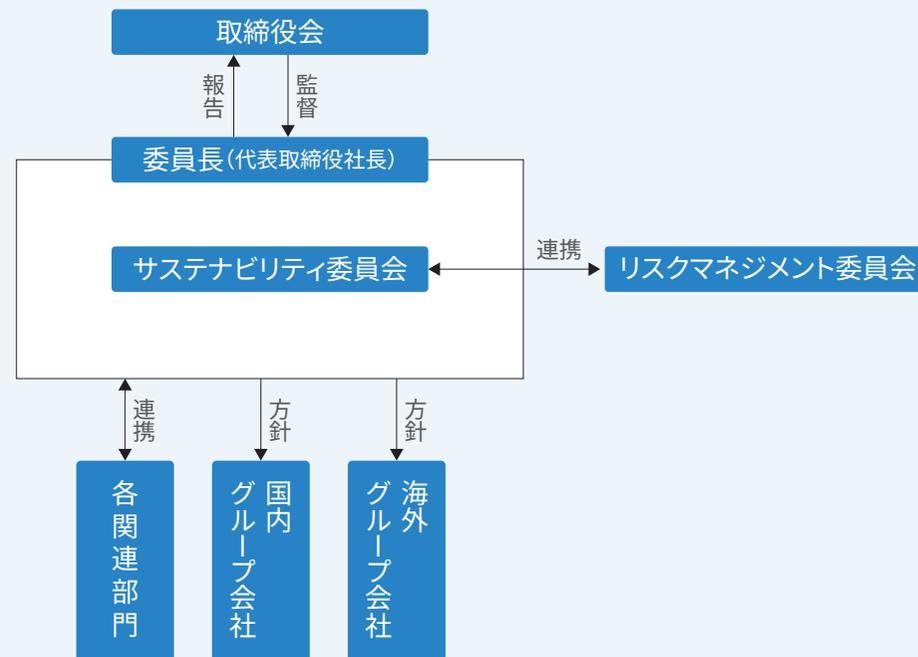
サステナビリティ推進体制及び取締役会の関与

アマノグループでは、2022年4月に持続可能な社会の実現に向けた取り組みの推進と企業価値の向上との両立を目指すため、「サステナビリティ委員会」を設立しました。

当委員会は、代表取締役社長を委員長とし、アマノグループのサステナビリティ経営に関わる対応やマテリアリティ策定ならびに社内教育、情報開示の機能等を担っています。具体的には、各関連部門やリスクマネジメント委員会と連携し、サステナビリティ活動に関する基本方針や活動目標、実施課題を策定します。策定したものについては、グループ会社にも展開しております。

また、取締役会が、当委員会が検討した基本方針や活動目標の報告を年に1回以上受け、その進捗状況の評価、活動方針の実効性を承認し、監視・監督しております。

●サステナビリティ推進体制図



マテリアリティ

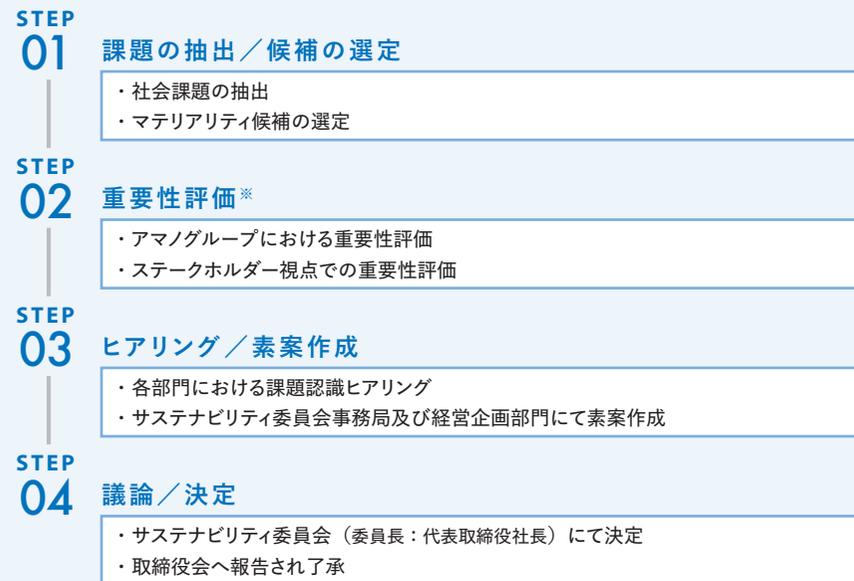
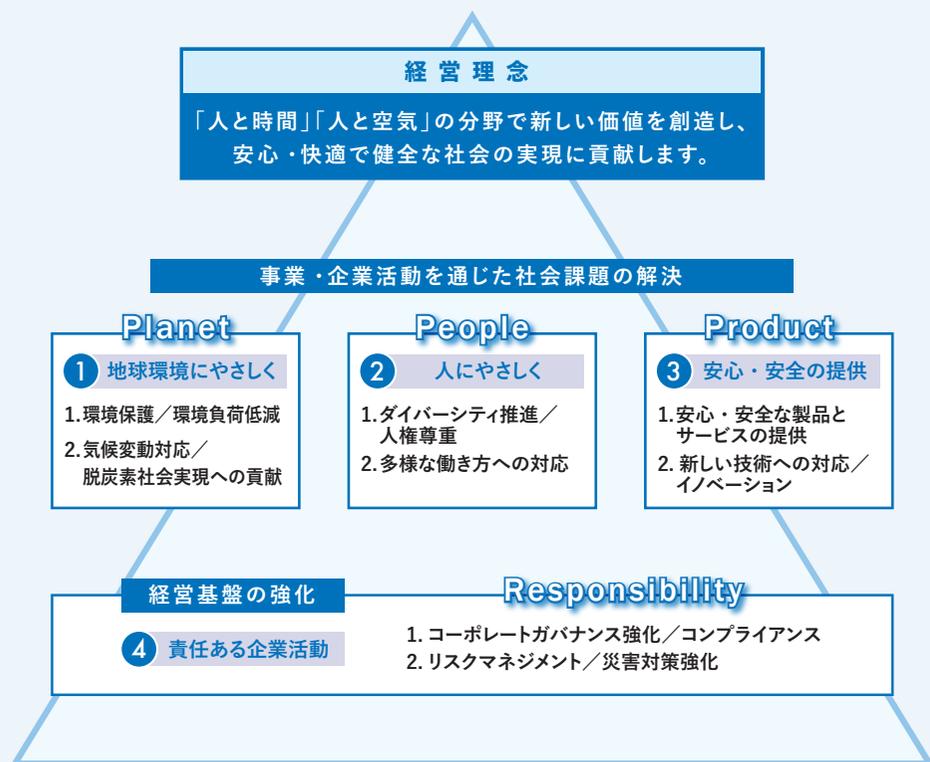
マテリアリティ策定

アマノグループの重要な課題を特定する為、サステナビリティ委員会及び経営企画部門を中心に検討を重ね、2023年7月、以下の通り4つのテーマ・8つのマテリアリティを特定いたしました。今後、各部門において、マテリアリティに沿った課題並びにKPIを設定し取組みを進めてまいります。

マテリアリティ特定プロセス

マテリアリティの特定については、先ず、SDGsの目標やGRIガイドラインなどを参考に社会課題の抽出を行い、アマノグループの経営理念、事業内容並びに中長期的なビジョンを勘案しマテリアリティ候補の選定を行いました。

選定されたマテリアリティ候補について、事業機会とリスクの両方を考慮しながら、アマノグループにおいて重要と考えるもの並びにステークホルダーがアマノグループに対して期待されているものの観点で絞り込みを行い、各部門に対して課題認識に関するヒアリングを実施いたしました。その上で、サステナビリティ委員会事務局及び経営企画部門で取り纏めを行い、素案を作成いたしました。作成した素案について、サステナビリティ委員会(委員長:代表取締役社長)にて決定し、左記に掲げる4つのテーマ・8つのマテリアリティが取締役会へ報告され、了承されました。



※ Step 02においては、右表の通り2軸で重要性評価を実施し、両軸で重要度が高いと考えられる事項をマテリアリティとして特定しております。



外部イニシアチブ

・国連グローバル・コンパクトへの参加

アマノは、2023年6月に国連が提唱する「国連グローバルコンパクト(以下「UNGC」)に署名しました。UNGCは、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取り組みです。UNGCに署名する企業・団体は、人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、腐敗の防止に関わる10原則を遵守・実践し、事業活動を展開することが求められています。当社グループでは、UNGCの10原則を支持し、持続可能な社会に貢献できるよう取り組んでまいります。



・電機・電子温暖化対策連絡会への参画

アマノでは、産業界や業界団体における活動の重要性を認識し、電機・電子温暖化対策連絡会に参加しています。そこで議論される気候変動に関する政策や最新の動向を、アマノグループの環境マネジメントに活用しています。



・グリーン購入ネットワークへの加入

2004年にグリーン購入ネットワーク※に加入しました。

※グリーン購入ネットワークとは、グリーン購入を推進するために1996年に設立された全国ネットワーク組織。

社内浸透への取り組み

従業員および役員一人ひとりのサステナビリティへの理解を深めるために、必要な研修を段階的に実施しています。これまでに役員研修(役員および国内グループ会社社長対象)や、従業員向け定期研修、サステナビリティに関するコラムの発信等を行いました。

ステークホルダーとのかかわり

アマノグループの事業は、ステークホルダーとの信頼関係の上に成り立っており、お客さま、取引先、株主、従業員、地域社会の方々など、多様なステークホルダーの要請を理解し、期待に応じていくことが企業価値の向上につながると考えています。その為には、ステークホルダーの皆さまとの対話が重要と認識しており、アマノグループでは右表の活動を行っております。

アマノグループは、国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」の理念に共感し、事業活動と社会貢献活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献します。

ステークホルダー	主な内容	活動の一例
お客さま	安全・安心な製品・サービスの開発・提供	安全・安心な製品・サービスの開発・提供
		品質管理の徹底
		生産マイスター検定の資格取得推進
お客さまが求めるニーズへの対応	直販によるお客さまとの日常的なコンタクト	展示会・セミナーの開催・参加
		情報セキュリティ管理の徹底による個人情報保護
イノベーションの創出	オープンイノベーションの実施	ワンストップ型ETCの社会実験への参画
		調達方針の策定
取引先	サステナブル調達	グリーン調達の推進
		人権デュー・デリジェンスの実施
		サプライチェーンとの情報共有
		株主総会
株主	適切な情報開示	サステナビリティレポート
		コーポレートサイトでのIR情報開示
		グローバル
従業員	多様な人材の活動支援	人材育成、教育研修制度(選抜型、応募型)
		多様な働き方とワークライフバランスへの取り組み
	労働安全衛生、メンタルヘルス対策	定期的な作業環境測定
		防災訓練
		健康診断・ストレスチェック
相談受付	アマノグループホットラインの設置	
地域社会	ご意見・ご要望の把握	問い合わせ窓口での対応
		地域貢献
		周辺地域の美化・清掃活動
		スポーツ振興